

## お姉ちゃんになった

きよ年の父の目、ママがサブライズで、  
「れおちゃんに妹ができるよ。」

とうれしそうにいった。わたしは、よろこんだふりをしたけど本当はいやだった。なぜなら、わたしは一人っ子だったし、りょう方のおじいちゃん、おばあちゃんにとつてのはつままで、とつてもかわいがられていたけど、妹にとられてしまうと思っただけだ。

10月、ママがとつぜん入いんして、妹が生まれた。妹ができてうれしい気もちよりも、ママに会えなくてさびしい気もちの方が、大きかった。でも、さいしょにほにゅうびんでミルクをのませるのを手つだったとき、ひっしでミルクをのんでいるすがたを見て、はじめて妹をかわいと思うた。

妹ができて、よかったことが今ではかぞえきれないぐらいたくさんある。たとえば、みんなに「そっくりだね」と言われると、うれしくなるし、おむつをかえたり、おふろに入れたり、絵本を読んであげたりすると「さすがおねえちゃん！」とほめられて、いい気分になる。それに、お人形みたいにかわいくて、おちそうなほったたを見ているだけで、わらってしまふ。

学校がきゆうに休みになったとき、友だちとあそべなくてつまらなくなると思っただけど、妹がいるからたのしく家ですごすことができた。

だけど、一人っ子の方がよかつたなつて思うときもある。みんなが妹だけにちゆう目しているときは、かなしくなる。テレビを見ているときに、わたしのかみの毛をひっぱつてギヤーギヤーないてじゃまをしたり、べん強中に間だい用紙をぐしやぐしやにして、食べたりする妹。妹は何をしてもおこられないのに、なんでわたしはいつもおこられるんだろうと、さみしい気もちになることもある。でも、妹がわたしを見てニッコリわらうと、いやな気もちもわすれてしまふ。妹のおかげで、わたしはがまん強くなつた気がする。

妹は、まだハイハイもできない赤ちゃんだけど、わたしの「いないいないばあ！」に「ばん「キヤッ！キヤッ！」とわらつてくれたり、パパとママが前よりやさしくなつたからわたしの妹になつてくれて「ありがとう」つて思う。大きくなつたら、いつしよに自てん車にのつて遠くに行こうね。

樋口 伶央奈